

長野県の須坂市観光協会は、結婚12周年を祝う「絹婚式（きぬこんしき）」を秋分の日（9月23日）の恋人の聖地「須坂アートパーク」で実施した。2001年に結婚した県内外の夫婦や家族12組が、ハート形の影ができるモニュメントの前で記念撮影などを行った。

須坂市はかつて養蚕や製糸業で栄え、絹に深い縁を持つことから、同観光協会が今年初めて「絹婚式」を企画した。

同イベントでは、夫婦が相手に向けたメッセージカ

須坂アートパーク

恋人の聖地で絹婚式

ードを持ち寄り、「長い人生うまく手のひらで転がしてください」「これからもうれしいことや辛いことを一緒に分かち合おう」といったお互いのメッセージを交換し合い、会場を盛り上げた。

同観光協会の駒津健一会長は「今年初めて実施した絹婚式のイベントは全国的にも珍しい。絹婚式を祝う習慣が広がってもらえればうれしい。来年以降も開催を継続したい」とコメントした。

須坂アートパークにあるモニュメントは本を開いた形をした台座の上にあるリングの影がハート型に映るといふもの。年2回、春分と秋分の日（正午）に最も美しいハート形の影が映るため、同イベントの開催に秋分の日が選ばれた。



ハート形の影と記念撮影する参加夫婦